

地域学校協働活動

地域学校協働活動とは？

地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行うさまざまな活動です。

重点課題と設定目標

北方町では、地域学校協働活動を推進するにあたり、重点課題を抽出し目標を設定しています。令和5年度の目標及び評価は次ページのとおりです。

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年目標値	本年実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
21421北方町	②学校と地域の課題	02 青少年の健全育成	令和5年度より、小中一貫の特設教科「北方科」がスタートして3年目を迎える。北方科は、町への郷土愛とその教科の学びを深めることをねらいとして、地域と深く関わることで、「地域の中で子どもを育む」ことに主眼が置かれている。そのために、魅力的な体験活動を支える地域のゲストティーチャー(アドバイザー)の整備や学校と関係機関との連携をいかに図り、活動を点から線へとつないでいけるかが課題となっている。	・地域に開かれた園・学校づくりを推進することをねらいとする北方コミュニティ学園協議会に地域学校協働活動本部を併設し、協議会を年3回実施することで、民生児童委員や自治会、町PTA連合会などと情報交流をしながら、地域と子どもたちの双方向の活動を考える。 ・「北方科」の教科書に沿いながら、地域のゲストティーチャー(アドバイザー)による授業や子どもたちが地域に出て貢献できる活動を仕組む。 ・町民ふれあい運動会や未来タウン北方ふれあいまつりをはじめとする町行事に子どもたちが積極的に参画できるようにする。	・北方コミュニティ学園協議会を年3回実施。「地域は子どもたちにとってどのような活動を提供できるか」「子どもたちは地域にどのような貢献ができるか」をテーマに多くの意見(提案)をいただくことができた。 ・「北方科」では、地域の文化や自然、産業などについて、ゲストティーチャーの指導の下、1～9学年において学習を計画的に進めることができた。 ・町民ふれあい運動会では、83名の児童生徒がボランティアとして運営に関わることができた。また、未来タウン北方ふれあいまつりでは、学園の3学年が地域の菓子店と共同で菓子を企画・販売することを通して、学びを深めることができた。	地域と児童生徒が双方向(支援と貢献)で関わり合えることで、町の教育目標「たくましい子の育成」の達成を図る。	① 自らの課題解決に向けて、考え取り組める。 ② 自分や仲間のおよきを知り、人の役に立つ人間になりたいと思う。 ③ ボランティア活動や地域の活動に進んで参加する。 ※各学園の方針により、項目の表現内容が変わる場合がある。	①81 ②88 ③69	%	85	①81 ②83 ③61	①「北方科」の教科の内容について、地域の人材(ゲストティーチャー)と共に、よりよい授業や活動を追求することで、安定した運営基盤の構築を図ることができた。 ②各学校運営協議会では、「各学園の課題に応じた地域の支援」の視点でも協議が展開され、それが形になりつつある。南学園では、登下校における地域の見守りボランティア「南っ子見守り隊」が結成された。 ③町民ふれあい運動会では、74名の児童生徒がボランティアとして参加するなど、いくつかの町行事に関して子どもたちの貢献度が高まっている。地域活動への参加率をさらに向上させたい。 ④北方コミュニティ学園協議会を3回実施。また、コミュニティ学園カレンダーを全戸に配布した。